フィールド（現場）からの風 459

宮田守男

温暖化では、仮想水と気候難民の視点での対応が大切だ

パラリンピック開催に賛否が渦巻いたが無事終了した。しかしパラリンピックは触れる事の少ない障がいスポーツを知る良い機会だった。パラ選手の競技に臨む姿のすごさ、人間の可能性に驚きさえ覚えた。水泳背泳ぎでメダルを獲得した14歳の山田美幸選手は生まれつき両腕がないが、屈託ない笑顔と談話「障がいって個性だと思う。その個性が私の体に強く出ちゃったぐらい」は強く印象に残った。

人間は歳を積み重ねる度に、身体は幼子になって行くと言われている。「歳をとった」「思うように体が動かなくなってしまった」と考えずに、現実に向き合わされている身体の状況でもチャレンジできるスポーツを求めて行かなくては思っただけでも、パラを開催して多くの国民に考えていただく事ができたのではないだろうか。

9月に入っても梅雨のような天候が続く。農林水産省は、6月下旬から7月上旬の日照不足や8月の豪雨などの影響で、長野県を含む20都道府県の米の作柄概況を「やや不良」と見込んだ。しかし続く日照不足で「食味が心配だ」「収穫期の水田の柔らかさで適期収穫が難しい」などの声が聞こえてくる。

だが水が暮らしを支え、生活を潤していることも事実だ。新潟日報のコラム日報妙さんの水が洪水や日照りなどで人間の手に負えない状況からの仮想水と気候難民の記述が心に残る。「この夏、国連の気候変動に関する政府間パネルは、地球温暖化の原因は人間にあると断じた。産業革命前より平均気温は1度を超え、加速中だ。0・5度上がれば、熱波や大雨、干ばつは急増する。農業や生態系に及ぼす影響は計り知れない。野菜や家畜を育て食料にするには、どれくらい水が必要か。それを推定したものを仮想水と呼ぶ。環境省によれば、牛肉500グラムを得るには、牛が飲む水や牧草を育てる水を含め1万リットルが必要という。パン1枚は100リットルだ。日本の食料受給率は4割だから大半が輸入である。輸入分を仮想水で換算すると2005年は実に800億トン、琵琶湖3つ分、世界一の水輸入大国といわれるゆえんだ」と。

温暖化が放置されれば私たちの食生活は成り立たない。世界に気候難民があふれると警告した。温暖化が及ぼす影響が多岐に渡る事に改めて考えさせられた。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

長野・白馬を結ぶオリンピック道路反田橋の改良工事が進む。関係者に感謝だ